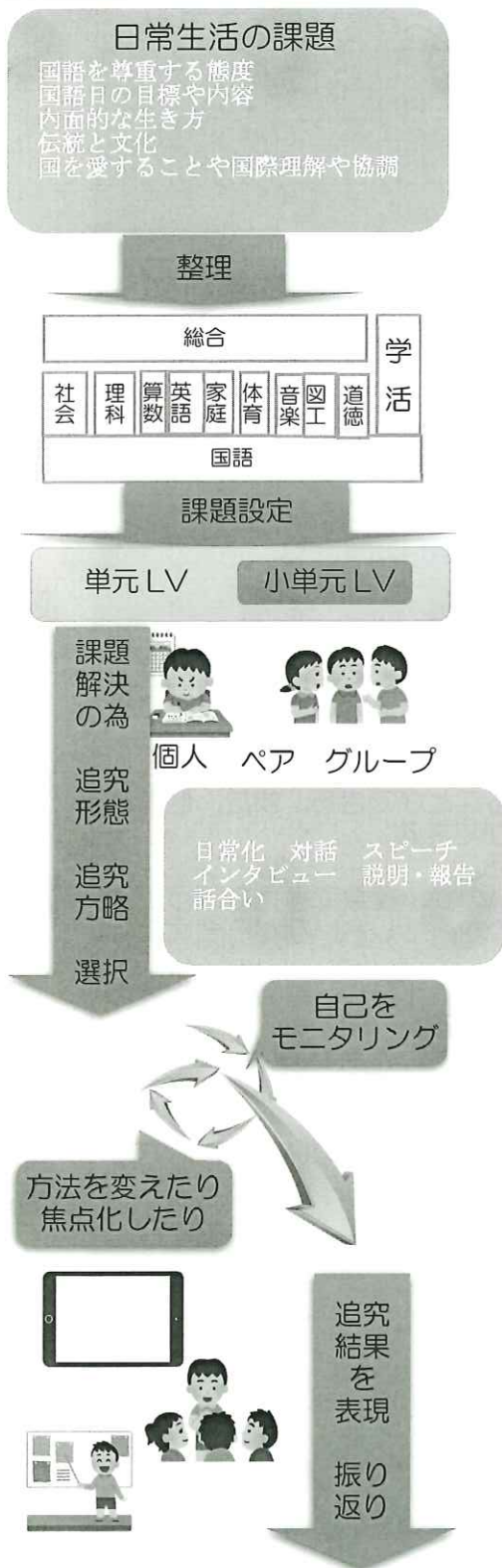




国
語

課題設定	<p>国語科の目指す「自らの学びをメタ認知」しながら学び続ける子供</p> <p>日常生活における人と人との関わりの中で、思いや考えを伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げるようとしている。日常生活の中から話題を決め、集めた材料から必要な事柄を選んだり、その内容を検討したりしようとする。</p> <p>(1) 話すこと</p> <p>① 話の内容が明確になるように、構成を考えることを通して、自分の考えを形成しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話の。内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別する。 <p>② 適切に内容を伝えるために、音声表現を工夫したり、資料を活用したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する。 <p>(2) 聞くこと</p> <p>① 話し手が伝えたいことと自分が聞く必要のあることの両面を意識しながら聞き、感想や考えを形成しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。 <p>(3) 話し合うこと</p> <p>① 進行を意識して話し合い、互いの意見や考えなどを関わらせながら、考えをまとめたり広げたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりする。
課題追究	<p>課題を解決する際に、追究形態、追究方略を選択し、自力追究する。そして、追究中に、自己をモニタリングして、追究方法を変えたり、焦点化したりする。</p> <p>(1) 課題を解決する為に、追究形態、追究方略を選択し、自力追究する。</p> <p>① 課題解決の追究形態の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人追究、ペア追究、グループ追究、ジクソー、ワールドカフェ等 <p>② 国語科固有の追究方略の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他教科等で学習した内容の活用 ・ ICT 機器など音声言語のための教材の活用 <p>(2) 追究中に、自らをモニタリングして、追究方法を変えたり、焦点化したりする。</p> <p>① 貫かれる自力追究の基、必要に応じて追究形態を変更する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形態が変化しても常に自力追究を継続し、必要に応じてその形態を選択する。 <p>② 国語科固有の追究方略の価値の実感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な事物、経験、思い、考え等をどのように言葉で理解し、どのように言葉で表現するか、という言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。特に話すこと・聞くことにおいては音声言語でやりとりし、話し手と聞き手との関わりの中で成立する学習であり、多様な場面や状況における学習の積み重ねが必要になる。
パフォーマンス	<p>追究結果を既習の表現方法から選択して伝わりやすく構成して表現する。そして、追究方略、追究内容、表現方法、結果等の観点で、それぞれのパフォーマンスを整理する。</p> <p>(1) 追究結果を既習の表現方法から選択して伝わりやすく構成して表現する。</p> <p>① 国語科固有の表現方法を選択して表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする。 ・ インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする。 ・ それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う。 <p>(2) 追究方略、追究内容、表現方法、結果等の観点で、成果物や発表を整理する。</p>

～自己を見つめ、学びの主体者となる子供～



目指す姿を実現する支援例

【生活場面と国語を子供がつけられるよう支援する】

- ・ 話したり聞いたりすることは、生活の上での基本的な言語活動であり、資質・能力は、学習したことを繰り返し用いたり、生活場面において使いこなす機会を多くもったりすることによって、より確実に身に付けることを促す。
- ・ 他教科等の学習や学校の教育活動全体の中で、学習したことを使う機会を自ら設定するよう促す。

【子供が学習の見通しをもてるよう支援する】

- ・ 国語科においては、単元のゴールとなる活動が育成を目指す資質・能力を明らかにした上で、他教科等で学習した内容を題材にすることなどが考えられる。そ言語能力の育成に向けて、国語科が中心的な役割を担いながら、教科等横断的な視点から教育課程の編成、単元の計画を立てる必要がある、子供がその全体像を見通すのは難しい。そのため、他教科等の内容の系統性や関連性を考慮した計画を作成し、子供と教師がその全体像や単元LVや小単元LVでもどうつながっているのか共有することが必要である。
- ・ 単元のゴールとなる活動に対して、国語科の既習経験から解決可能な課題を自ら設定するよう促す。

【子供の追究形態の選択を支援する】

- ・ 課題の難易、量から、協同か協働か、個人かペア、グループか等を子供が判断する。その為に、学習経験を積み重ねられるようにする。難しく、多岐に渡る総合的な内容であれば協働的に学ぶよう促す。

【自力追究を子供がメタ認知し、調整するよう支援する】

- ・ 自力追究中に、自己をモニタリングできるように、ペアやグループで相談することを必要に応じて教師が提案する。また、子供が自ら判断して交流できる学級風土や授業ルーチン子供と教師で予め構築する。
- ・ 選択している追究方略の難しさに子供は直面することがある。必要に応じて教師が直接支援したり、他者と交流したりするよう教師が促す。

【自力追究結果を子供が表現できるよう支援する】

- ・ 自力追究の過程や結果を他者に伝えるために、どの表現方法を選択するのか吟味するよう促す。
- ・ パフォーマンスも自力追究の過程の一つである。ペア、グループで相談して、本時の課題に最も適した方法で表現を選択するよう促す。
- ・ iPad等のICTを活用して自らの表現について吟味するよう促す。

【子供が学習を構造化し、概念化できるよう支援する】

- ・ 本時の課題に応じて、追究方略、追究内容、表現方法等のどの観点で整理すべきなのかを吟味するよう促す。
- ・ 他者を見ることは、自分を見つけることにつながる。他者の考えを理解し、そのよさを見つけるよう促す。

国語科（話すこと・聞くこと）担当：森 紗織・真田 武知